

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400020		
法人名	(株)ソフィールド		
事業所名	ウォームハート		
所在地	栃木県佐野市越名町188		
自己評価作成日	平成22年9月12日	評価結果市町村受理日	平成22年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念を實踐する。 1. 利用者様本位の質の高いサービスを提供する施設 2. 利用者様が生き甲斐を持ち安らかな生活が送れる施設 3. 地域に開かれた施設
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市東南部の住宅や田畑が混在する静かな環境に位置している。近隣には大型の商業施設や小学校、公民館等があり利便性に富んだ場所にもなっている。管理者は親の介護経験から認知症グループホームとデイサービスからなる併設施設を創設するに至っており、入居者本位と家族の立場に立った質の高いケアの提供に取り組んでいる。ホームでは隣接する公民館で開催される行事等への参加や法人で主催する夏祭りに地域住民から多数の参加がある等、地域との相互交流に積極的に取り組んでいる。入居者の健康管理については医療機関との連携の他、努めて外出を心がけており、ホームの周辺への散歩等を行い、健康促進と五感の刺激や生きがいを得られるよう支援に取り組んでいるホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営理念として「利用者様本位の質の高いサービスを提供する施設」「生き甲斐を持ち安らかな生活を送れる施設」「地域に開かれた施設を挙げており、職員毎日の朝礼で目標を掲げ、理念の実践に日々努めている。	入居者が住み慣れた地域の中で自分らしく暮らすこと等を明記した3つの運営理念をつくりあげている。理念はホームの入口に掲示されている他、職員にも周知されており、理念を自然に口ずさめるようになっている。毎日の朝礼では職員一人ひとりが1日の目標を掲げる等、理念の共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館に隣接しており、公民館で開催される行事等には積極的に参加している。またホームにおいて月1回程度よさこい踊りやアコーディオンサークル等のボランティアの訪問がある他、近隣小学校の運動会では老人会として参加もしている。又本年は民生委員協力支援のもと地域住民参加の夏祭りが開催された。	ホームに隣接している公民館では様々な行事が開催されており、積極的に参加している。また、近くの小学校の運動会にも老人会として参加しており、3世代交流を行っている。ホームでは周辺自治会と民生委員の協力による地域住民も参加した夏祭りを開催する等、地域住民との相互交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣地が界公民館ということもあり、気軽に老人が立ち寄ってもらうように努めている。運営推進委員には地元を代表する人になって頂き、施設を理解してもらえよう努めている。パンフレットは地域の公民館・金融機関・医院等に置いてもらい周知を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に一度開催しており、参加者は入居者代表、入居者家族、市議員、町会長、老人会長、民生委員、公民館長、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員等で構成されている。議題については、ホームでの行事や入居者の状況等の報告をするほか、運営に関して参加者から助言や意見を出してもらい、サービスの向上に役立っている。また、地域での情報交換の場としても役立っている。	運営推進会議は入居者代表、家族代表、市職員、地域住民、公民館長等の参加により3ヶ月に1度開催されている。会議ではホームの支援状況報告の他、参加者からの提案や助言もあり、入居者へのサービス向上や運営に活かしている。	運営推進会議のメンバーは固定したものにせず、議題毎に新たな参加者を選定する等、会議が更に充実したものになる取組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長が月に数回、市担当者を訪問してホームの現状報告や情報交換を行っている。また、市主催の研修会やフォーラム等への参加も積極的に行いながら、市担当者との連携を図り、サービスの向上に取り組んでいる。	市担当職員が運営推進会議に参加しており、ホームの状況や課題等を把握してもらっており、情報交換や連携を図りながらサービス向上に取り組んでいる。市からの情報により、外部で開催される研修会等にも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切していない。利用者が家で生活しているような、生き甲斐を持ち安らかな生活が送れるようにしている。	毎月実施しているホームの内部研修の開催時に身体拘束を取り上げており、職員は身体拘束にあたる行為等の把握に努め、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。日中、玄関等の施錠は行わず、併設するデイサービスにも自由に行けるようになっている。	

グループホームウォームハート

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が虐待防止チェックシートを作成している。朝礼で「倫理研究所」の本を輪読し、個々の職員の倫理観、人間力の向上に努力している。職員更衣室や事務室などには、虐待防止法の貼紙をし意識向上を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	社会福祉協議会、市等の研修に参加し勉強している。成年後見制度のパンフレットは置いてある。		
9		契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、管理者又は生活相談員が各項目について説明している。又、重要事項説明書については2部作成し、事業所と契約者が1部ずつ保管し、いつでも目を通せるようにしている。又必ず施設を見学していただき、納得した上での入所をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者、利用者の家族代表に出席していただき意見を聞いている。又利用者の家族の来訪の際には、利用者が家族に話している中で、施設の問題点がないかよくお聞きし、運営の改善に努めている。	運営推進会議時に家族代表からの意見を確認している他、面会等の来所時等にも家族から意見や要望を確認しており、出された意見等は職員間で共有すると共に改善点があれば協議する等、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護委員会、レクレーション委員会、給食委員会の各委員会、全体会議を設け職員の意見や提案を運営者や管理者に伝えるようにしている。	職員は日々の支援時や全体会議、各種委員会の参加時等にも管理者に意見や提案を表すことが出来る環境にあり、出された意見や提案等は入居者へのサービス向上や運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	朝礼では本人の目標を発言させやりがいを持たせている。運営者が個人的な悩みは出来るだけ察知し相談にのっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	朝礼にて「倫理研究所」の冊子を輪読し、個人の倫理観、道徳観を向上させ、利用者に対するサービス精神、人間性の尊重の精神を養っている。又、職場内にてケアマネジャーを講師として勉強会を開くとともに、社外研修には出来るだけ参加させている。		

グループホームウォームハート

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護施設運営者の中で、特に親しく交流している施設が数施設ある。特に認知症デイサービスの施設とは定期的な勉強会を開いている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と本人から、本人の個人的な情報を把握し、必ず利用前には数回、信頼関係が出来る間まで訪問していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には施設を理解していただけるまで、数回見学していただき、現状把握に努めている。又利用した場合の介護の最良の方策を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・施設で話し合いをし、利用者がこの施設が良いのか、他のサービスのほうが良いのか、フランクに相談にのっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の作り方や味付け等を教えていただいている。書道や生け花の先生をしていた入居者の方に、他の入居者や職員が教えていただき、支え合う関係を作っている。食事の準備や洗濯物たたみなど、出来る事はしていただいたり、職員と一緒にいる。食事やお茶の時間など、一緒に過ごしコミュニケーションを大切に喜怒哀楽をともにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪の際は、本人の現況、施設としての対処の仕方を報告している。又本人が家族に話した悩みや相談には積極的に対応し、本人が生き甲斐を持ち安らかな楽しい生活が出来るよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	医者は本人のかかりつけ医院にしている。又レクリエーション等で外出する際は、出来るだけ本人の馴染みの深い場所へ行くなどしている。友人等の訪問は家族以上に歓迎するように気を使い、再来訪をお願いしている。	入居者の要望により、馴染みの深い場所や自宅の様子を見に出掛けている。友人や知人の来所時には馴染みの関係が途切れないよう歓迎すると共に再訪を促す等、馴染みの場所や人との関係継続に努めている。	

グループホームウォームハート

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く出来るよう、食事の時の席、レクレーションの仕方等全てにわたって配慮している。デイサービスの利用者とも楽しく触れ合う機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を止めた方には、家族から現況を聞くとともに相談に応じている。又移った施設の管理者等から現況を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が自分の希望する生活が出来るよう、本人・家族から聞き取り、それに沿うようにしている。職員は毎日の状況から、本人が一番安らかな楽しい生活が出来るようにケアしている。	職員の離職や異動が少ないため、職員は入居者と馴染みの関係を築いている。職員は入居者の日頃の会話やしぐさから希望や意向の把握に努めており、引継ぎは口答及び連絡帳にて職員間で共有が図られるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの経過や問題点を職員一人ひとりが把握しやすくする為に個人ファイルを設け、現場に置いていつでも記入したり見れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、排便尿、血圧、体温等の記録をこまめにとるようにしている。又職員全員が把握しておくべき事は、別記録として記録ノートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護委員会があり、入居者一人ひとりの問題を取り上げ、入居者本位のケアに取り組んでいる。月一回の全体会議にはケアマネージャーも出席し介護計画に反映させている。	介護委員会で入居者一人ひとりの希望や課題を検討しており、利用者本位のケアに取り組んでいる。毎月開催している全体会議にはケアマネージャーも出席し、現状に即した介護計画になっているかの検討を加え、状態等に変化が見られる場合には新しいものに変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を時系列で記載し対応に役立てている。毎朝、一日の利用者個人個人の介護の注意すべき点、やらなければならないこと等の打合せをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少人数でもあり、なるべく本人の要望に応じて柔軟な支援をしている。散歩、医療機関の受診、外食、買い物、ドライブ等、その時々希望や要望に対して支援している。		

グループホームウォームハート

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の民生委員、ボランティア団体、公民館、スポーツクラブ等からご支援いただいている。又運営推進委員で絆をより一層深いものにしていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人の希望を聞き、出来るだけいままでのかかりつけ医の診療を受けている。施設の提携医は近くにあり、本人、家族の同意の上で受診したり、往診を受けている。家族の対応が困難な場合には、事務長を中心に付き添いを行っている。入院設備のある医療機関とも提携している。	本人や家族の希望を確認してかかりつけ医を決めている。受診の付添いは、家族の対応が困難な場合のみ職員が付き添い支援を行っている。往診を受けている入居者も2名おり、入院設備のある医療機関との連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が勤務し、専門的な立場から、日常の健康管理や医療活用の支援を受けている。又提携医の看護職員に相談にのってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	医師会病院が提携医であり、相談にのってもらっている。家族とのコミュニケーションを密にし、入院しても本人を時々見舞い、病状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、退去にあたっての条件として、長期入院が必要な場合、共同生活が困難になった場合を重要事項説明書に明示し、入居者・家族に納得して頂いている。生活活動動作の低下や認知症の進行によりホームでの生活が困難になった場合は、かかりつけ医に相談するとともに、家族に報告相談し他の施設を探したり医療機関にお願いしている。	重度化した場合の対応については、重要事項説明書に記載している他、入居時に本人及び家族に説明を行い、理解を得ている。ホームでは本人の状態に応じてかかりつけ医や家族とも相談しながら、最良の対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や救急車を呼ぶ等の初期対応訓練を行っている。又応急手当のマニュアルを常に見えるところに置き、勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員に地域の町会長・市議員・民生委員の方になっていただき、日頃より協力つくりをしている。避難訓練は、3ヶ月に1度、入居者がホームの駐車場に避難する訓練を行っており、消火器の点検や緊急時の通報訓練も行っている。	避難訓練は3ヶ月に1回、ホームの駐車場を利用して実施している。災害対策についても、運営推進会議で協力体制づくりを行っている。スプリンクラーの設置は平成23年春に設置を予定している。	定期的に訓練が実施され、スプリンクラーの設置も予定されているが、今後、運営推進会議等で地域住民の訓練参加や協力を得るなどして、協力支援体制がつけられることを期待したい。

グループホームウォームハート

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は、家族の希望により名札をつけている。コミュニケーションの際には、職員は入居者を「～さん」と呼び傾聴の姿勢を大切にしている。朝礼の際にも入居者の尊厳等の精神的な指導を徹底して行っている。個人の記録等は通常は現場に置いているが、記載が済んだ物は事務所に保管している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し呼び名は「さん」付けで呼んでいる他、家族からの希望も取り入れながらプライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。管理者は朝礼等を利用して職員に利用者に対する敬意を払う気持ちや尊敬語を使うよう指導していると共に入居者の自己決定も大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の日常の変化に敏感に対応し、出来るだけその人本人の希望に添えるよう対応している。どんなことでも利用者自身の気持ちを尊重し、納得してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・就寝・起床・外出など、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援し、職員は出来るだけ入居者が自由にできるよう柔軟に対応するのが基本と考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容店は馴染の店がある人には、都合に合わせて行ってもらい、その他の人は、理容室にホームに来てもらい、カットやパーマなど・カラーなど、希望日にそって実施してもらっている。服装は着替えを毎日している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の中に栄養士がおり、1日1500kcal程度としながら、栄養バランスに考慮し旬の味を大切にしている。利用者は下ごしらえや味付け、盛り付け、食器洗い、片付け等にも積極的に参加している。	献立は栄養士である職員が栄養バランス等を考慮しながら作成している。入居者は調理の手伝いや盛り付け、食器洗い、片付け等、出来る範囲で参加してもらっている他、職員は入居者と共に食事をしている。月に1回は外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士である職員が中心となり、野菜や魚を中心としたバランスを考えた、一日1500kcal前後の献立を作成している。完食を目指し、自分に合った量の盛り付けを入居者にもお願いすることもある。水分量の目安は一日1500mlであり、食事・水分量は個別に記録している。刻み食やとろみ剤を使用している利用者もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入歯の人は、夕食後洗浄液につけている。自分で歯磨きできない利用者には、職員が介助にて口腔内の清潔を保持している。		

グループホームウォームハート

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄出来るよう、一人ひとりの排泄パターンを把握し、又習慣を活かし気持ちよく排泄出来るように支援している。夜間は2時間おきに見守り、その人に合った支援をしている。	入居者一人ひとりの排泄記録を付けており、各々の排泄パターンやサインを生かした排泄支援に取り組んでいる。夜間時はポータブルトイレも併用した対応もしており、その人に合った排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中は出来るだけ、体を動かす運動や散歩を心掛けている。食事は米飯が主食で、副食は魚や野菜を中心に消化の良い献立にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望の時間や回数に沿うように支援している。大半の方は週3回で、職員が一人で支援しているが、職員2人の支援が必要な人は夕方までに入浴してもらっている。又色々な入浴剤を使用し、入浴を楽しめるように工夫している。	入浴は週3回程度、昼食後から夕方にかけて入浴を支援しているが、入居者の希望により毎日の入浴や他時間帯にも対応している。入浴剤等も本人の希望を取り入れるため様々な物を用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼はレクレーションをしたり、散歩をしたり出来るだけ運動し、夜間気持ちよく眠れるようにしている。休息したい時間に休息してもらい、室温調整をして、快眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能については、しっかり勉強し、医師からの用法・注意事項は徹底し、利用者の服薬後の変化には注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、日頃の見守りを通して入居者の得意なことや好きなことを把握しており、折り紙でコマを作ったり、習字、生け花、調理、洗濯等、一人ひとりが参加できるように役割や楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出については、ホームの庭や周辺への散歩、買い物等もその日の希望にそって柔軟に対応している。また、2ヶ月に1度は外食にも出かけている。	一人ひとりの機能の維持、ストレスの発散や五感刺激を得るために積極的に外出支援に取り組んでおり、晴れた日は必ず建物の外に出るようにしている。買い物等も本人の希望に沿うように出かけている。	

グループホームウォームハート

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には1万円を家族より預り管理している。買い物に行った時には、預かり金の中から自分で払ってもらっている。お金の管理出来る利用者には別に自分で管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族や知人と話をしたいときには、本人自ら電話してもらっている。手紙は施設宛に利用者の友人や親戚から届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの間取りはゆったりとした配置になっており、中庭もあり自然採光も入りやすく明るい空間を作っている。トイレは4箇所を設置して使いやすくなっている。玄関を入るとすぐにテーブルと椅子があり、季節の花を生けて、入居者と家族、面会者が居心地よく過ごせるようにしている。	共用空間はゆったりした空間が確保されており、リビングと隣接した和室も設置されている。リビングに面した中庭からは自然光が差し込み明るい空間になっている他、季節の花や利用者の創作品が飾られる等、居心地良く過ごせる空間がつけられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやテーブルを配置するとともに、和室を設け気の合った利用者同士が一人ひとりと楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居室には、自宅で使用していた家具や衣類、食器類等を持参していただいている。本人の希望に応じて、ベッド又は布団を選らんで頂いている。	各居室には入居者が自宅で使用していた家具や家電類の他、使い慣れた馴染みの小物類が持込まれており、個性のある居室づくりがなされている。衣替え等は家族の協力も得ながら、季節に合った衣類が選べるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平屋建てにし、木材を使用、全館バリアフリーにし手摺をつけている、中庭が中心にあり廊下を回って散歩出来る様になっている。		